

(第1号様式)

令和6年5月29日

神奈川県教育委員会教育長 殿

## 学校教育計画（令和6年度～令和9年度）

学校名	伊志田高等学校	課程・学科 教 育 部 門 ・ 学 部	全日制の課程 普通科
-----	---------	---------------------------	------------

### 1 学校のミッション

全日制普通科の高校として、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に応えるため、学年制によるカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組み、学力の育成、豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的に自立することをめざした学校づくりに取り組む。教育課程については、共通教科・科目を中心に、生徒の特性や地域・学校等の実情を踏まえながら、普通科として適切な編成を行う。

これまで、自分の考えを表現し行動する力を身に付け、国際社会で積極的に活躍できる人材の育成をめざし、思考力・判断力・表現力等の育成等に取り組んできた。また、生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めることをめざした不断の授業改善の実施等、これから時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動の充実に取り組んできた。今後も引き続き、国際理解教育を継続し、国際社会で活躍する人材を育成する。

### 2 学校教育目標

憲法及び教育基本法の精神に則り、学校教育法の定めるところに従って、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて高等普通教育を施し、社会について広く深い理解と健全な批判力を養い、個性の確立に努め、国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養う。

### 3 計画策定時点での課題

- 学習した内容について、知識・技能について身に付けることはできるが、自ら疑問を持つことやその疑問に対して深く調べたり、他の知識と結び付けて考えたりするといった、知識・技能を活用する能力を高める必要がある。また、探究活動において、文献や資料から情報収集し、それらを基に自身の考えを深め、学校教育目標にあるように、「健全な批判力」をさらに高めることが課題である。
- SNSなどの情報伝達手段の発達により、生徒に今までになかった悩みや課題が生じている。それらを解決に向けて生徒を支援する方法を模索することが求められている。

#### 4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	情報化やグローバル化が進展し、人々が今まで経験したことのない社会を生き抜く資質・能力を育成するために、自ら考える力や自ら判断する力を身に付けるとともに、それらを活用する能力の向上を図る。	自らの問い合わせを見出し、深い理解に結び付けるために、指導のねらいに応じて、授業での生徒の学びを振り返り、学習や指導改善に生かす。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	生徒一人ひとりの個性、学校や家庭、地域で生徒を取り巻く環境を踏まえたきめ細かな生徒指導・支援を行う。	かながわ子どもサポートドックなどを通して、生徒との面談を実施し悩みや課題を把握する。家庭と連携し、必要に応じて、S C ・ S S W 、学警連、児童相談所や特別支援学校など、外部機関とも連携する。
3	進路指導・支援	生涯にわたって、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかを考えさせ、自己実現できるようにキャリア教育を充実させ、進路指導・支援を行う。	面談等を通して、生徒に自己の将来像について考えさせる。さらに、様々な進路行事を設定し進路についてビジョンを持たせる。
4	地域等との協働	学校運営協議会や保護者、地域の関連機関等と連携し、学校の教育活動をさらに充実させる。	学校運営協議会で学校の方針等について検討する。その方針のもと実施する様々な教育活動において、P T A 、地域にある企業や大学などと連携し、生徒に幅広い体験をさせる。
5	学校管理 学校運営	事故・不祥事の防止に努めるとともに、生徒が安心して学習や様々な活動に取り組めるように、安全な環境を整備・維持する。	年間を通して事故・不祥事防止研修を実施する。生徒が災害から自らの生命を守るために必要な態度を育成する。また、非常用物資の備蓄を管理する。日常では、清掃を徹底し、清潔で安全な学習環境を整備する。